

飼育についてのQ & A

Q 飼育動物の入手方法と選び方

前回のシンポジウムでかわいいウサギを使った実践が発表になっていましたが、そのウサギを私の学校でも飼って、子どもたちに触れさせたいのですが、入手方法をおしえてください。

不登校対策に活用したいと思っています。また、何匹入手すればよいですか？また、この種類のほかにはどんな動物が適切でしょうか？

A

動物を導入するときは、動物が衛生上安心できる動物かどうか、性格はどうかなどの検討をあなたの学校を担当する近くの獣医師と一緒になさり、導入した動物の健康を見てもらうのが一番です。その上で、子どもに触れ合わせるためには、人を見つめる丸い目と毛のある魅力的な動物でおとなしい性格で扱いやすいことが大事です。そのためには、群馬県獣医師会が繁殖させているホーランドロップイヤーという種類のウサギは小さめでおとなしいそうですので、適切かとおもいます。しかし、このウサギは野外での飼育には適していません。ウサギは飼育舎で飼育するというお考えの学校には群馬県獣医師会は送ってくれないようです。そのあたりのご確認をお願いします。

不登校対策のためには、その担当の先生の部屋にペット動物を1匹だけを飼って、子ども興味を向けさせると良いようです。動物は、1匹のほうが人になつきますので、子どもへの効果が大きくなります。ケージの掃除や餌やりを手伝ってもらえると、それを楽しみにすることができるよう・

中には、「世話係り」の任命証を校長先生からもらったことで、1年生が張り切って毎日葉っぱなど動物の好きな餌を少しもって登校し始めた事例もあります。最初はおうちの方が付き添ったようですが、除々に、ひとり立ちして1ヶ月ほどで、まったく問題がなくなったそうです。これは校長室のモルモットの事例です。

モルモットは餌をくれる人を見るとピーピーと鳴いて、よってくるため一層かわいくなり、世話のしがいが大きくなるようです。

この学校では、普段は6年生が入れ替わり立ち代り毎日掃除と世話に来てくれるそうですので、校長先生はちっとも大変ではない、と言っています。休みも交代で幼稚園児用のバスケット持ち帰ります。

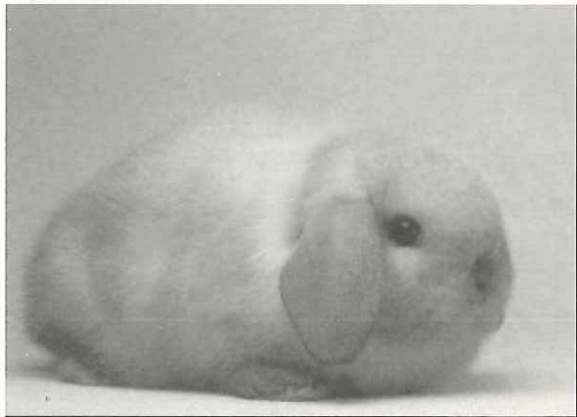
つまりやさしい性格に育てなければ、動物を無人のところに一人にさせないことが大事です。持ち帰りやすい大きさの動物を選びましょう。その点 群馬県獣医師会のウサギもモルモットもちょうど良い大きさと思います。また子どもへの働きかけは、大きさがあり世話に手間がかかるけれど、抱き心地がよい分、ハムスターよりずっとおおきいでしょう。

以上、飼い方や飼う目的などをご確認の上、それを添えて入手の注文をなさってくださいようお願いします。

モルモットやハムスター、一般のウサギなどは 当方に連絡くだされば、健康管理されている動物を持っている実験動物業者を紹介いたします。FAX 0422-53-7099

群馬県獣医師会のホーランドロップイヤーやプチココなどについての連絡先は、以下の通りです。

〒370-0002 群馬県高崎市日高町 965 番
(社) 群馬県獣医師会 学校動物愛護指導委員会 電話 027-361-9241



Q 鳩の飼育について

私が赴任してきたとき、この小学校にはクジャク鳩が30羽もいました。毎日掃除をしています、糞がたくさんあり、鳩が飛ぶと糞が舞い上がります。このままで良いのでしょうか？掃除が大変で困っています。

A

この2年くらい前に流行したのでしょうか？鳩、それもクジャク鳩が学校に何かのご褒美で配られた事例が見られます。ある先生から伺ったのは他の賞品は、バリケン、ガチョウなどやはり鳥だったそうです。水鳥は池も必要で、それも掃除など大変だからクジャク鳩にしたけれど、すぐに繁殖して目を離しているうちに30羽になったという話もあります。このような賞品はもらわない方が無なんです。断りづらかったら、学校獣医師に禁じられていると言って下さい。

どうしてもその鳩を飼いたかったら、まず学校獣医師に相談して、健康診断してもらいましょう。以前からいる鳥になにか病気を移さないとも限りません。

なお、賞品としての鳩をもらった学校は、その後の鳩の繁殖のすごさと、鳩用にはできていない狭い小屋の中を飛び交うことからくる不潔さ、などにどこも難儀しているようでした。ふつうの飼育舎は、飛ばないチャボを飼うのには便利で、子どもとの交流もできますが、飛ぶ鳩は子どもとの交流も難しいと思います。

実際に訪問してみた他の事例では、飼育舎の中で仕切られた半畳の個室にウサギが1匹ずつ入って、その個室の壁が切れる天井近くの暗闇部分に鳩が30羽近く飛んでいました。糞の量も多く、掃除が追いつかず 鳩が飛ぶとその飛沫が飛び散ります。また動物も鳩の糞が堆積した小屋の中での健康な生活できないのが本当です。それで、相談を受けた近くの学校獣医師が訪問し、鳩の糞便検査などをしましたが、虫などの心配はありませんでした。しかし、鳥の糞に病原があったとき、それが乾燥して舞い上がると身体に吸い込まれ、悪さする時があります。鳥インフルエンザの時も、それがあって掃除をするようにという指示がでました。特に鳩の糞には悪いカビが生えます。糞が舞い上がるような状態になっている場合には、中にはいる人はマスクを着用した方が良いでしょう。

しかし、忘れないで頂きたいのは、おおよそ人を含めて動物は皆、自分の糞と生活したくないと言うことです。小鳥でも糞をするとどこかに飛んで行ってしまいますね。つまり健康上も生活の質という面からも、鳥は糞と一緒に生活したくないと言えます。それで毎日の掃除が大事ですが、鳥が多すぎる飼育は無理があります。

まず、獣医師の訪問をお願いし、飼育の様子をみてもらってから、鳥の健康診断をしてもらいましょう。健康な鳩と病気のものとは分けて、必要なら治療などの対応をしながら、もらい手を探すことにします。

その時に保護者の支援を受ける事が大事です。子どもの心を育てるために学校で飼っている動物のことですので、これをひどい状態においておくのは子どもの気持ちを傷つけるし、処分はもっと傷つけるから、保護者も一緒に努力してもらうことが必要です。やさしい気持ちを子どもたちに見せてほしいと、保護者を説得してください。子どもにひどい処置を教えれば、一生そのような人生を教えることだし、一緒に動物を助けるように苦労することは、一生子どもに感謝されるでしょう。それは親が衰えた時、子どもが親の介護をどう考えるかに影響するほど、子どもの心にインパクトを与えます。

ある事例ではPTAが地元紙に事情を掲載してもらい手を探しました。また知り合いから鳩好きな方を探しました。また別の学校では、適正数を理解した学校が、一生懸命動物園などをお願いし、引き取り手を見つけました。その後飼育舎の改善もしましたが、掃除が楽になり、子どもと動物の良い交流ができているとのことでした。

結局、鳩を飼うならリンゴ箱、あるいは小さな靴箱くらいに、外から鳩が入る入り口(トラップ)をつけて、一つがだけを飼います。毎朝夕2回鳩を外にとばしますが、小屋を掃除して餌と水を整理すると、鳩は餌を食べるために小屋に戻ってくるでしょう。朝と夕方の2回とばせるのが大変でも、掃除と餌やりは2回必要でしょう。そのために掃除がすぐに終わるように、小屋は小さい方がよいのですが、それが無理なら鳩は飼わない方が無難です。頑張ってもらい手を見つける方向に進めて下さい。そして子どもと交流のできる動物を1年生のために1クラスに1頭の数的大事にかけて頂けたらと思います。

なお、関連記事が全国学校飼育動物研究会の会議室の「鳩の飼育について」に掲載されていますので、ご参考になさって下さい。